

学生確保の見通し等を記載した書類

目次

1. 入学定員設定の考え方と学生確保の見通し	2
1) 新設組織の入学定員	2
2) 入学定員設定の考え方と定員充足の見込み	2
(1) 博士課程前期2年の課程	2
(2) 博士課程後期3年の課程	3
(3) 医学履修課程	5
3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	6
(1) 博士課程前期2年の課程の定員充足根拠	6
(2) 博士課程後期3年の課程の定員充足根拠	12
(3) 医学履修課程の定員充足根拠	18
2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	23
1) 学生募集力の強化	23
2) 多様な志願者獲得に向けた入学者選抜	24
3) 大学院生への経済的支援の強化	24
4) 柔軟な履修環境	25
5) 充実した研究環境	26
3. 社会的要請や人材需要の動向	27
1) 人材の養成に関する目的とその他の研究教育上の目的	27
(1) 博士課程前期2年の課程	27
(2) 博士課程後期3年の課程	28
(3) 医学履修課程	28
2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	29
(1) 大学院修了生を採用するにあたり求める能力	29
(2) 大学院修了生に対する採用希望動向等	30

1. 入学定員設定の考え方と学生確保の見通し

1) 新設組織の入学定員

医学系研究科（以下「本研究科」という。）においては、現在の4専攻（医科学専攻、障害科学専攻、保健学専攻、公衆衛生学専攻）を1専攻（総合医学専攻）に再編する。現4専攻の入学定員と新たに設置する専攻の入学定員は次の表1のとおりである。新専攻では研究者養成により重点を置き、博士課程後期3年の課程を中心に入学定員の増加を図り、入学定員の総数を従来の243人から267人へと24人増加させる。

表1. 専攻の入学定員

【現専攻】

区 分	博士課程・ 前期2年の課程	博士課程・ 後期3年の課程	医学履修課程	合 計
医科学専攻	30	—	130	160
障害科学専攻	20	9	—	29
保健学専攻	32	12	—	44
公衆衛生学専攻	10	—	—	10
合計	92	21	130	243

【新専攻】

区 分	博士課程・ 前期2年の課程	博士課程・ 後期3年の課程	医学履修課程	合 計
総合医学専攻	110	42	115	267

2) 入学定員設定の考え方と定員充足の見込み

(1) 博士課程前期2年の課程

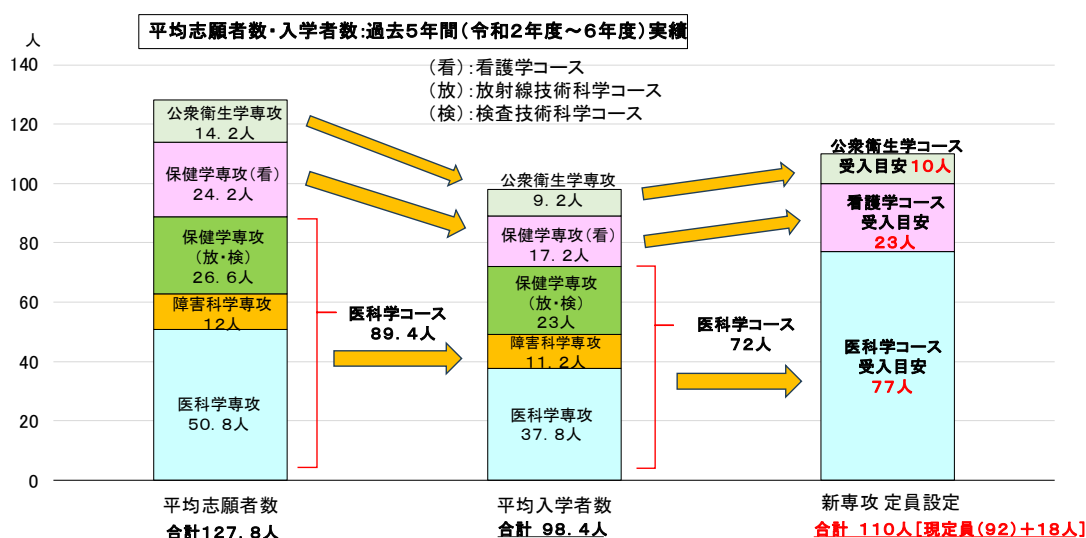
博士課程前期2年の課程の入学定員については、現専攻における過去5年間（令和2年度～令和6年度）の平均志願者数及び平均入学者数の実績を踏まえ、図1のとおり、総合医学専攻内に設置する各コース（公衆衛生学コース、看護学コース、医科学コース）の受入目安人数の考え方に基づき、合計110人（各コース別の入学定員は設けない）とする。

- ① 公衆衛生学コース：公衆衛生学専攻の過去5年間の平均志願者数は14.2人、平均入学者数は9.2人となっている。過去5年間の入学者数実績が現専攻の定員数（10人）とほぼ同数で推移していることから、公衆衛生学コースの受入目安人数を10人とする。
- ② 看護学コース：保健学専攻看護学コースの過去5年間の平均志願者数は24.2人、平均入学者数は17.2人となっている。志願者数は十分に確保できている

ことから、これまでの入学者実績に加え、助産師養成課程を学部から大学院に移行することを踏まえ、看護学コースの受入目安人数を 23 人とする。

- ③ 医科学コース：医科学専攻、障害科学専攻、保健学専攻（放射線技術科学コース・検査技術科学コース）の過去 5 年間の平均志願数は 89.4 人、平均入学者数は 72 人となっている。志願者数は十分に確保できていることから、これまでの入学者実績に加え、総合知を身につけた大学院修了生を求める社会の要請に応えるため、医科学コースの受入目安人数を 77 人とする。

図 1. 博士課程前期2年の課程：入学定員設定の考え方と定員充足の見込み



上記で設定した入学定員（110 人）の充足見込みをより客観的に示すため、現専攻における過去 5 年間の入学状況の分析を行うとともに、専攻再編の社会的ニーズや進学意欲等を調査するため、令和 7 年 9 月～10 月にアンケート調査を実施した。過去 5 年間の入学状況の分析とアンケート調査結果の詳細は後述するが、再編後の入学定員を 110 人としても十分に定員を充足することが可能である。

(2) 博士課程後期3年の課程

博士課程後期 3 年の課程の入学定員については、現専攻における過去 5 年間（令和 2 年度～令和 6 年度）の平均志願者数及び平均入学者数の実績を踏まえ、図 2 のとおり、総合医学専攻内に設置する各コース（看護学コース、医科学コース）の受入目安人数の考え方にに基づき、合計 42 人（各コース別の入学定員は設けない）とする。

① 看護学コース:保健学専攻看護学コースの過去5年間の平均志願数は8.2人、平均入学者数は6.6人となっている。志願者数は十分に確保できていることから、これまでの入学者実績に加え、研究者養成の強化を最大限推進するため、看護学コースの受入目安人数を8人とする。

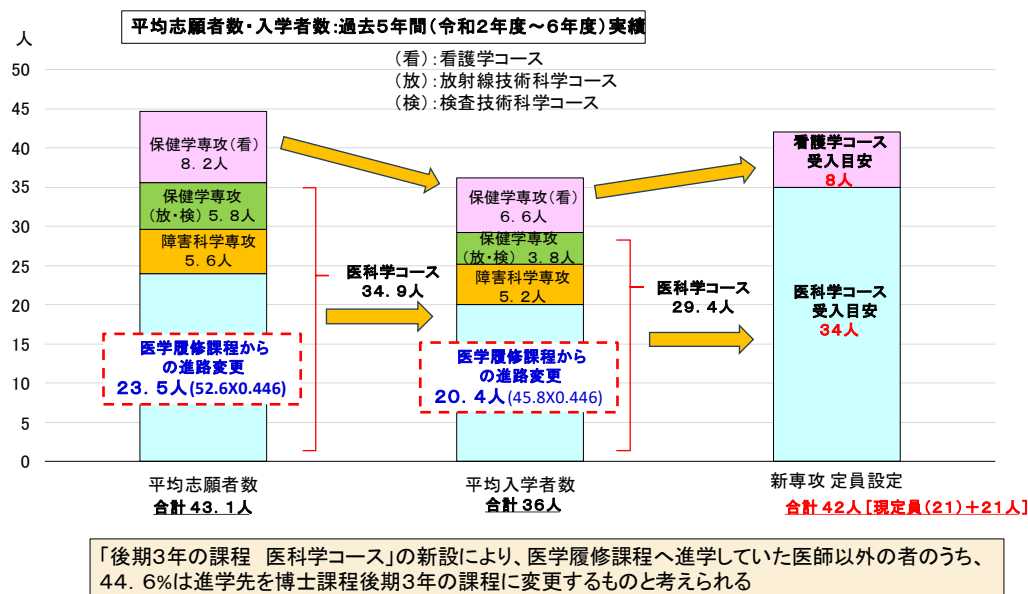
② 医科学コース:障害科学専攻、保健学専攻(放射線技術科学コース・検査技術科学コース)の過去5年間の平均志願数は11.4人(5.6+5.8人)、平均入学者数は9人(5.2+3.8人)となっている。

また、現専攻の医科学専攻は、これまで修士課程のみで博士課程後期3年の課程がなかったため、更なる進学を希望する学生は医学履修課程(4年の課程)を選択していた。しかし専攻再編により、博士課程後期3年の課程医科学コースを新設することで、医学履修課程に進学していた修士課程・博士課程前期2年の課程修了者の一定数は、専攻再編後は博士課程後期3年の課程に進学先を変更すると考えられ、後述する「3)(2)博士課程後期3年の課程の定員充足根拠」におけるアンケート解析結果から、医学履修課程へ進学していた医師以外の44.6%(志願者数23.5人、入学者数20.4人)は、博士課程後期3年の課程に進学先を変更するものと考えられる。

よって、医学履修課程からの進学先変更者の影響を加味した平均志願者数は34.9人(11.4+23.5人)、入学者数は29.4人(9+20.4人)となる。

新専攻医科学コースに見込まれる志願者数(34.9人)の状況を踏まえ、研究者養成の強化を最大限推進するため、受入目安人数を34人とする。

図 2. 博士課程後期3年の課程:入学定員設定の考え方と定員充足の見込み



上記で設定した入学定員（42 人）の充足見込みをより客観的に示すため、現専攻における過去 5 年間の入学状況の分析を行うとともに、専攻再編の社会的ニーズや進学意欲等を調査するため、令和 7 年 9 月～10 月にアンケート調査を実施した。過去 5 年間の入学状況の分析とアンケート調査結果の詳細は後述するが、再編後の入学定員を 42 人としても十分に定員を充足することが可能である。

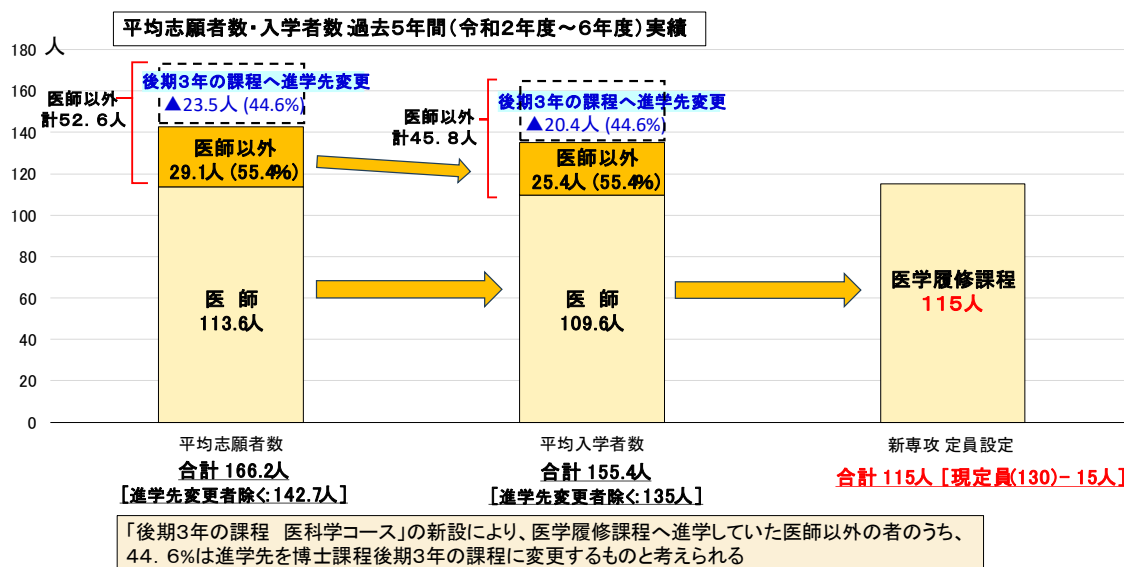
(3) 医学履修課程

医学履修課程の入学定員については、以下の考え方（図 3 参照）に基づき 115 人とする。

医学履修課程における過去 5 年間（令和 2 年度～令和 6 年度）の平均志願者数は 166.2 人、平均入学者数は 155.4 人となっているが、「(2) 博士課程後期 3 年の課程医科学コース」における考え方で記載したとおり、これまで医学履修課程へ進学していた医師以外の 44.6%（志願者数 23.5 人、入学者数 20.4 人）は、博士課程後期 3 年の課程に進学先を変更するものと考えられる。

よって、新専攻における医学履修課程の平均志願者数は 142.7 人（166.2－23.5 人）、平均入学者数は 135 人（155.4－20.4 人）へ減少すると考えられる。減少が見込まれる入学者数を踏まえ、現定員（130 人）から 20 人程度減員することも考えられるが、社会から求められている研究医（フィジシャン・サイエンティスト）養成の強化を推進するため、減員を 15 名に止めて定員を 115 名とする。

図3. 医学履修課程:入学定員設定の考え方と定員充足の見込み



上記で設定した入学定員（115 人）の充足見込みをより客観的に示すため、現専攻医学履修課程における過去 5 年間の入学状況の分析を行うとともに、専攻再編の社会的ニーズや進学意欲等を調査するため、令和 7 年 9 月～10 月にアンケート調査を実施した。過去 5 年間の入学状況の分析とアンケート調査結果の詳細は後述するが、再編後の入学定員を 115 人としても十分に定員を充足することが可能である。

3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(1) 博士課程前期2年の課程の定員充足根拠

現 4 専攻における過去 5 年間の修士課程・博士課程前期 2 年の課程の入学状況を表 2 に示す。

表 2. 現 4 専攻における過去 5 年間の修士課程・博士課程前期 2 年の課程の入学状況

課程・専攻	定員	5年間平均				令和 2 年度				令和 3 年度				令和 4 年度				令和 5 年度				令和 6 年度			
		志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①
4専攻 合計	92	127.8	107.0	98.4	107.0	128	118	106	115.2	141	115	108	117.4	140	105	91	98.9	116	100	96	104.3	114	97	91	98.9
修士 医科学	30	50.8	41.6	37.8	126.0	48	44	37	123.3	52	41	38	126.7	61	42	38	126.7	46	41	38	126.7	47	40	38	126.7
前期2年 障害科学	20	12	11.4	11.2	56.0	19	18	17	85.0	20	20	20	100.0	7	6	6	30.0	9	9	9	45.0	5	4	4	20.0
前期2年 保健学	32	50.8	41.4	40.2	125.6	44	40	40	125.0	51	41	40	125.0	57	44	39	121.9	52	41	41	128.1	50	41	41	128.1
看護学コース		24.2	17.6	17.2		17	13	13		26	18	18		27	20	18		26	19	19		25	18	18	
放射線技術 科学コース		17.8	15.2	14.6		13	13	13		18	16	15		24	18	16		17	13	13		17	16	16	
検査技術 科学コース		8.8	8.6	8.4		14	14	14		7	7	7		6	6	5		9	9	9		8	7	7	
修士 公衆衛生学	10	14.2	12.6	9.2	92.0	17	16	12	120.0	18	13	10	100.0	15	13	8	80.0	9	9	8	80.0	12	12	8	80.0

現専攻の博士課程前期 2 年の課程（入学定員 92 人）における過去 5 年間（令和 2 年度～令和 6 年度）の平均志願者数は 127.8 人、平均入学者数は 98.4 人（定員充足率 107%）となっている。専攻再編後の博士課程前期 2 年の課程の入学定員の設定は 110 人であり、過去 5 年間の平均志願者数の状況から十分に定員を充足することが可能である。

＜アンケート調査の調査結果による学生確保の見通し＞

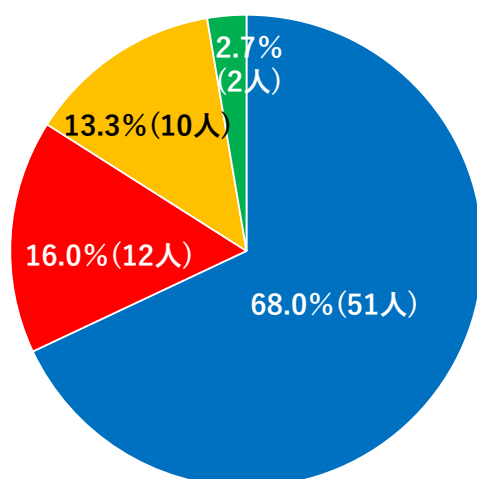
入学定員が充足できる見通しについて調査するため、①東北大学医学部生（医学科、保健学科の全学年）、②東北大学他学部生（本研究科への進学実績がある理学部、歯学部、薬学部、農学部の全学年）、③社会人（東北大学病院及び東北大学病院と関連のある良陵令和会に加盟する 26 病院の医療従事者）等を対象に、令和 7 年 9 月 12 日～10 月 3 日までの期間、Google Forms によるアンケート調査を行った（別添資料 1）。この調査結果を分析し、定員の充足見込みを説明する。

① 医学部保健学科生(内部進学者)の進学意欲

総合医学専攻博士課程前期 2 年の課程は、医学部保健学科を基盤としており、令和 9 年 3 月に卒業予定の同学科 3 年生に対するアンケート調査（148 人のうち、75 人が回答（回収率 50.7%））では、図 4 のように再編後の総合医学専攻への進学に関して、「ぜひ進学したい」が 68.0%（51 人）、「できれば進学したい」が 16.0%（12 人）、「関心がある」が 13.3%（10 人）で、合計 97.3%（73 人）の学生に「進学意欲がある」ことが判明した。この中で、具体的に進学希望の専攻・コースを挙げた学生は 72 人（医科学コース 51 人、看護学コース 16 人、公衆衛生学コー

ス5人)であった。「進学意欲がある」ことが判明した73人に関して、実際の進学者を、「ぜひ進学したい」(51人)及び「できれば進学したい」(12人)と見込むと63人となる。よって医学部保健学科から総合医学専攻博士課程前期2年の課程への進学者数を63人と見込む。

図4. 専攻再編後の本研究科への進学意欲(保健学科3年)



■ぜひ進学したい ■できれば進学したい ■関心がある ■進学は希望しない

なお、表3に示すように、令和2年度～令和6年度の5年間における医学部保健学科の学生の修士課程・博士課程前期2年の課程への進学者は37～50人(平均44.6人)である。従って、再編後は18人(63人－45人)の増加が見込まれる。

表3. 修士課程・博士課程前期2年の課程への医学部保健学科からの進学者数

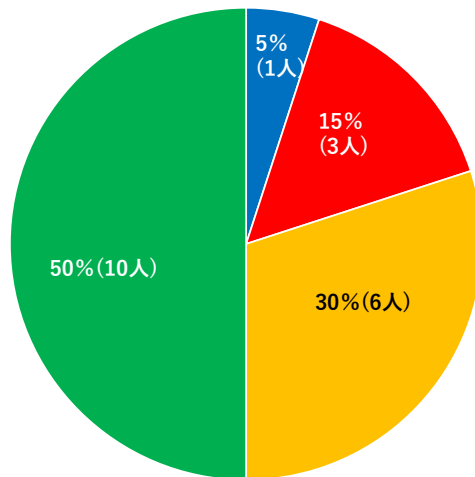
課程	専攻	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	5年間平均
修士課程	医科学	8	14	18	16	14	14
前期2年の課程	障害科学	0	1	4	2	1	1.6
前期2年の課程	保健学	27	33	23	31	25	27.8
修士課程	公衆衛生学	2	0	1	1	2	1.2
4専攻合計		37	48	46	50	42	44.6

② 他学部生の本研究科への進学意欲

図5のように、令和9年3月に卒業予定の他学部生(理学部3年生、歯学部5年生、薬学部創薬科学科3年生、薬学部薬学科5年生、農学部3年生)では、再編後の総合医学専攻への進学に関して、「ぜひ進学したい」5.0%(1人)、「できれば進学したい」15.0%(3人)、「関心がある」が30.0%(6人)で、50%(10人)

の学生に進学意欲が見られた。この中で具体的な進学希望先を挙げた学生は、博士課程前期2年の課程医科学コース（4人）及び博士課程前期2年の課程公衆衛生学コース（1人）であった。上記①と同様に、実際の進学者を「ぜひ進学したい」と「できれば進学したい」と回答した者とするすると4人となる。よって、他学部からの進学者数を4人と見込む。

図5. 専攻再編後の本研究科への進学意欲（令和9年3月に卒業予定の他学部生）



■ぜひ進学したい ■できれば進学したい ■関心がある ■進学は希望しない

なお、表4に示すように令和2年度～令和6年度の5年間における他学部生の修士課程・博士課程前期2年の課程への進学者は1～6人（平均3.4人）であった。よって専攻再編後も、他学部からの進学者はほぼ同数が見込まれる。

表4. 修士課程・博士課程前期2年の課程への本学他学部からの進学者数

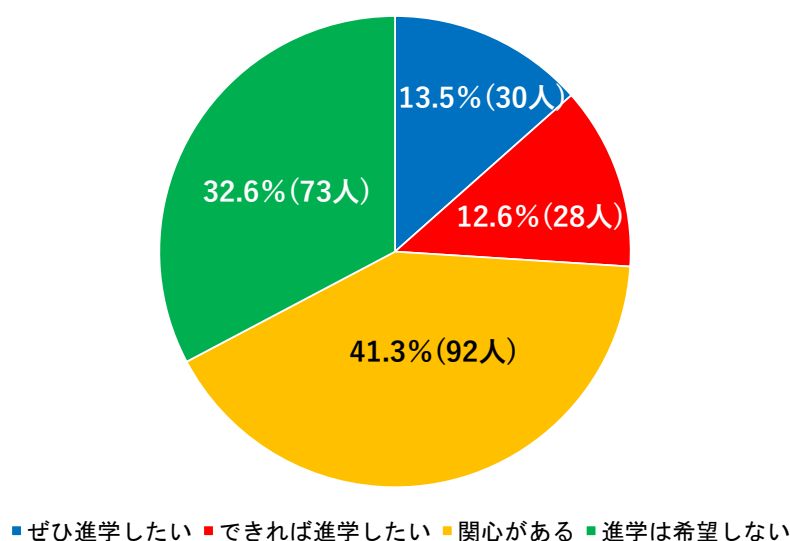
課程	専攻	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	5年間平均
修士課程	医科学	4	1	6	1	2	2.8
前期2年の課程	障害科学	1	1	0	0	0	0.4
前期2年の課程	保健学	0	1	0	0	0	0.2
修士課程	公衆衛生学	0	0	0	0	0	0
4専攻合計		5	3	6	1	2	3.4

③ 社会人の進学意欲

東北大学病院と良陵令和会加盟の27病院を対象に医療従事者へのアンケート調査を行った。その結果図6のように、再編後の総合医学専攻（全課程対象）への進学に関して、「ぜひ進学したい」は13.5%（30人）、「できれば進学したい」が12.6%（28人）、「関心がある」が41.3%（92人）で、合計67.3%（150人）の

社会人に進学意欲があることが判明した。この中で、博士課程前期2年の課程への進学意欲を示した者は35人（「ぜひ進学したい」3人、「できれば進学したい」7人、「関心がある」25人）であった。進学意欲を示した社会人について、上記①と同様に実際の進学者を「ぜひ進学したい」（3人）、「できれば進学したい」（7人）と見込むと10人となる。よって、東北大学病院と良陵令和会加盟病院からの社会人進学者数を10人と見込む。

図6. 専攻再編後の本研究科への進学意欲（医療従事者）



一方表5で示すように、令和2年度～令和6年度の5年間における社会人全体の博士課程前期2年の課程への進学者は14～21人（平均18人）であった。このうち今回のアンケート調査対象である東北大学病院と良陵令和会加盟病院からの進学者は1～6人（平均4.4人）、その他の病院等からの進学者は11～20人（平均13.6人（18-4.4人））であった。よって、その他の病院等からの社会人進学者を過去5年間の平均値（13.6人）に基づき14人と見込み、社会人全体の進学者見込数を24人（東北大学病院及び良陵令和会加盟病院10人、その他の病院等14人）と見込む。

表 5. 修士課程・博士課程前期 2 年の課程への社会人入学者数

課程	専攻	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	5 年間平均
修士課程	医科学	2 (1)	5 (0)	1 (0)	2 (1)	4 (1)	2.8 (0.6)
前期 2 年の課程	障害科学	6 (2)	8 (0)	1 (1)	5 (1)	0 (0)	4 (0.8)
前期 2 年の課程	保健学	8 (1)	2 (0)	11 (3)	5 (2)	14 (5)	8 (2.2)
修士課程	公衆衛生学	4 (1)	6 (1)	1 (0)	5 (2)	0 (0)	3.2 (0.8)
4 専攻合計		20 (5)	21 (1)	14 (4)	17 (6)	18 (6)	18 (4.4)

() は東北大学病及び良陵令和会加盟病院からの進学者数

④ 他大学からの入学状況

他大学からの入学者については、表 6 のように過去 5 年間（令和 2 年度～令和 6 年度）で 12～23 人（平均 17.8 人）であり、年度による大きな変化は見られない。従って総合医学専攻博士課程前期 2 年の課程へ進学する他大学卒業生を 18 人と見込む。

表 6. 修士課程・博士課程前期 2 年の課程への他大学からの進学者数

課程	専攻	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	5 年間平均
修士課程	医科学	16	10	7	12	14	11.8
前期 2 年の課程	障害科学	1	1	0	2	0	0.8
前期 2 年の課程	保健学	2	3	3	4	2	2.8
修士課程	公衆衛生学	4	1	2	2	3	2.4
4 専攻合計		23	15	12	20	19	17.8

⑤ 留学生の入学状況

留学生の入学者については、表 7 のように、過去 5 年間（令和 2 年度～令和 6 年度）で 8 人～21 人（平均 14.2 人）であった。よって、総合医学専攻博士課程前期 2 年の課程へ入学する留学生を 14 人と見込む。

表 7. 修士課程・博士課程前期 2 年の課程への留学生数

課程	専攻	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	5 年間平均
修士課程	医科学	7	6	6	7	4	6
前期 2 年の課程	障害科学	9	9	1	0	3	4.4
前期 2 年の課程	保健学	3	1	2	1	0	1.4
修士課程	公衆衛生学	2	3	4	0	3	2.4
4 専攻合計		21	19	13	8	10	14.2

<まとめ>

以上の分析結果により、博士課程前期 2 年の課程の入学見込数は、医学部保健学科生（内部進学者）：63 人、他学部生：4 人、社会人：24 人、他大学生：18 人、留学生：14 人、合計：123 人となる。従って再編後の入学定員 110 人を十分充足することが可能である。

なお、総合医学専攻ではコース別の入学定員を設けないが、博士課程前期 2 年の課程においては、医科学コース：77 人、看護学コース：23 人、公衆衛生学コース：10 人程度の学生受入を目安と考えている。

表 8 は、博士課程前期 2 年の課程への進学意欲を示した者（「ぜひ進学したい」「できれば進学したい」「関心がある」を選択した者）のうち、進学希望コースを回答した者の人数を整理したものである。①医学部保健学科生（内部進学者）、②他学部生、③社会人（東北大学病院及び良陵令和会加盟病院）のみのデータであるため正確に予測することは難しいが、概ね各コースの受入目安に応じた傾向を示していることから、各コースで目安としている学生数を確保することは十分に可能である。

表 8. 博士課程前期 2 年の課程における進学希望コース（アンケート結果より）

	医科学コース	看護学コース	公衆衛生学コース	合 計
① 医学部保健学科生	51	16	5	72
② 他学部生	4	0	1	5
③ 社会人	19	4	12	35
合 計	74	20	18	112

(2) 博士課程後期 3 年の課程の定員充足根拠

過去 5 年間の博士課程後期 3 年の課程の入学状況を表 9 に示す。

表 9. 現 4 専攻における過去 5 年間の博士課程後期 3 年の課程の入学状況

課程・専攻	5年間平均					令和 2 年度				令和 3 年度				令和 4 年度				令和 5 年度				令和 6 年度			
	定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率 ^①
4 専攻 合計	21	19.6	16.2	15.6	74.3	19	17	17	81.0	23	15	14	66.7	23	18	18	85.7	21	20	20	95.2	12	11	9	42.9
後期 3 年 障害科学	9	5.6	5.4	5.2	57.8	5	5	5	55.6	6	5	4	44.4	8	8	8	88.9	8	8	8	88.9	1	1	1	11.1
後期 3 年 保健学	12	14	10.8	10.4	86.7	14	12	12	100.0	17	10	10	83.3	15	10	10	83.3	13	12	12	100.0	11	10	8	66.7
看護学コース		8.2	7	6.6		7	7	7		10	8	8		9	7	7		7	6	6		8	7	5	
放射線技術 科学コース		4.8	2.8	2.8		5	3	3		7	2	2		5	2	2		4	4	4		3	3	3	
検査技術 科学コース		1	1	1		2	2	2		0	0	0		1	1	1		2	2	2		0	0	0	

現専攻の博士課程後期 3 年の課程（入学定員 21 人）における過去 5 年間（令和 2 年度～令和 6 年度）の平均志願者数は 19.6 人、平均入学者数は 15.6 人（定員充足率 74.3%）、となっている。

一方、現専攻の医科学専攻は、これまで修士課程のみで博士課程後期 3 年の課程がなかったため、更なる進学を希望する学生は医学履修課程（4 年の課程）を選択していた。しかし専攻再編により、博士課程後期 3 年の課程医科学コースを新設することで、医学履修課程に進学していた修士課程・博士課程前期 2 年の課程修了者の一定数は、専攻再編後は博士課程後期 3 年の課程に進学先を変更すると考えられ、後述するアンケート解析結果から、医学履修課程へ進学していた医師以外の 44.6%（志願者数 23.5 人、入学者数 20.4 人）は、博士課程後期 3 年の課程に進学先を変更するものと考えられる。

よって、医学履修課程からの進学先変更者の影響を加味した平均志願者数は 43.1 人（19.6+23.5 人）、平均入学者数は 36 人（15.6+20.4 人）、となる。

専攻再編後の入学定員の設定は 42 人であるが、新専攻において見込まれる志願者数の状況から十分に定員を充足することが可能である。

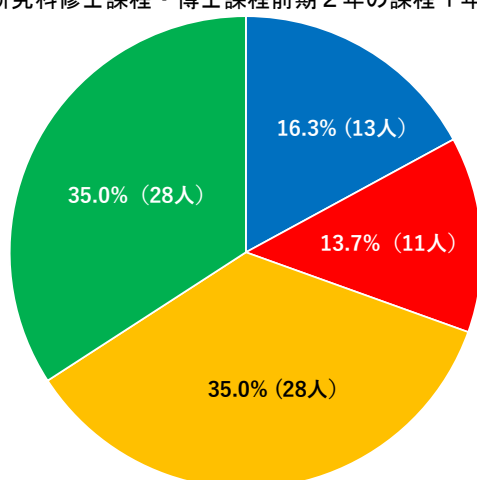
<アンケート調査の調査結果による学生確保の見通し>

入学定員が充足できる見通しについて調査するため、①本研究科大学院生（修士課程・博士課程前期 2 年の課程）、②他研究科大学院生（理学研究科、歯学研究科、薬学研究科、農学研究科の修士課程・博士課程前期 2 年の課程）、③社会人（東北大学病院及び良陵令和会加盟の 27 病院の医療従事者）等を対象に、令和 7 年 9 月 12 日～10 月 3 日までの期間、Google Forms によるアンケート調査を行った（別添資料 1）。この調査結果を分析し、定員の充足見込みを説明する。

① 本研究科(内部進学者)の進学意欲

令和 9 年 3 月に修了予定となる本研究科修士課程・博士課程前期 2 年の課程 1 年生に対するアンケート調査 (98 人のうち、80 人が回答 (回収率 81.6%)) では、図 7 のように、再編後の総合医学専攻への進学 (博士課程後期 3 年の課程及び医学履修課程) に関して、「ぜひ進学したい」が 16.3% (13 人)、「できれば進学したい」が 13.7% (11 人)、「関心がある」が 35.0% (28 人) で、合計 65.0% (52 人) の学生に「進学意欲がある」ことが判明した。この中で、博士課程後期 3 年の課程への進学意欲を示した学生は 39 人 (「ぜひ進学したい」 7 人、「できれば進学したい」 10 人、「関心がある」 22 人) であった。進学意欲を示したこれら 39 人に関して、「(1) 博士課程前期 2 年の課程の定員充足根拠」と同様に実際の進学者を「ぜひ進学したい」(7 人)、「できれば進学したい」(10 人) と見込むと 17 人となる。よって、本研究科から総合医学専攻博士課程後期 3 年の課程への進学者数を 17 人と見込む。

図 7. 専攻再編後の本研究科への進学意欲
(医学系研究科修士課程・博士課程前期 2 年の課程 1 年)



■ぜひ進学したい ■できれば進学したい ■関心がある ■進学は希望しない

なお、今回のアンケート調査結果では、進学に関心のある 52 人のうち、医学履修課程への進学希望者は 13 人であった。従って修士課程・博士課程前期 2 年の課程 1 年生が内部進学する場合、博士課程後期 3 年の課程 : 75.0% (39 人 ÷ 52 人)、医学履修課程 : 25.0% (13 人 ÷ 52 人) となる。

一方、表 10 に示すように令和 2 年度～令和 6 年度の 5 年間における本研究科修士課程・博士課程前期 2 年の課程修了者の内部進学先は、博士課程後期 3 年の課程 (障害科学専攻+保健学専攻) : 30.4%、医学履修課程 : 69.6% であった。

従って、専攻再編によって修士課程・博士課程前期 2 年の課程修了学生の 44.6% 程度 (69.6% - 25.0%) は進学先を医学履修課程から博士課程後期 3 年の

課程に変更すると予想される。これは博士課程後期3年の課程医科学コースの新設が特に大きな影響を与えていると考えられる。

表10. 本研究科修士課程・博士課程前期2年の課程修了者の内部進学者数

課程（進学先）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	5年間平均
後期3年の課程	10	8	13	10	4	9 (30.4%)
医学履修課程	20	22	19	18	24	20.6 (69.6%)

② 他研究科生の本研究科への進学意欲

図8に示すように、令和9年3月に修士課程・博士課程前期2年の課程修了予定の他研究科大学院生（理学研究科、歯学研究科、薬学研究科、農学研究科）に対するアンケート調査では、再編後の総合医学専攻への進学（博士課程後期3年の課程及び医学履修課程）に関して、「ぜひ進学したい」は0%であったが、「できれば進学したい」が7.7%（1人）、「関心がある」が30.8%（4人）で、合計38.5%（5人）の学生に「進学意欲がある」ことが判明した。この中で、博士課程後期3年の課程への進学意欲を示した学生は3人（「できれば進学したい」1人、「関心がある」2人：いずれも医科学コース）であった。「（1）博士課程前期2年の課程の定員充足根拠」と同様に実際の進学者を「できれば進学したい」の1人と見込む。

図8. 専攻再編後の本研究科への進学意欲
（令和9年3月に修士課程・博士課程前期2年の課程修了予定の他研究科大学院生）

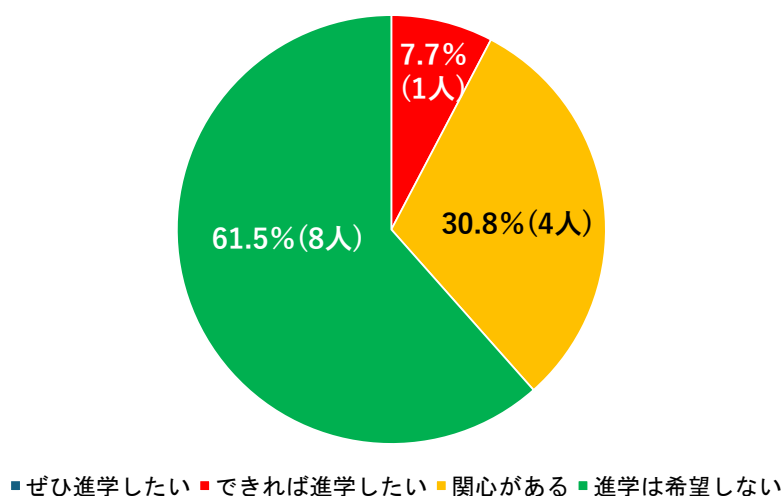


表11に示すように令和2年度～令和6年度の5年間における他研究科の博士

課程後期 3 年の課程への進学者は 0 ～ 1 人（平均 0.2 人）であり、他研究科からの進学者は再編後も同程度が見込まれる。

表11. 博士課程後期 3 年の課程への他研究科からの進学者数

課程	専攻	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	5 年間平均
後期 3 年の課程	障害科学	0	0	0	0	0	0
後期 3 年の課程	保健学	0	0	1	0	0	0.2
合計		0	0	1	0	0	0.2

③ 社会人の進学意欲

東北大学病院及び良陵令和会加盟の 27 病院の医療従事者を対象にアンケート調査を行ったところ、博士課程後期 3 年の課程への進学意欲を示した者は 27 人（「ぜひ進学したい」 6 人、「できれば進学したい」 4 人、「関心がある」 17 人）であった。これら進学意欲を示した社会人に関して「（1）博士課程前期 2 年の課程の定員充足根拠」と同様に、実際の進学者を「ぜひ進学したい」（6 人）、「できれば進学したい」（4 人）とし、東北大学病院及び良陵令和会加盟病院からの社会人進学者を 10 人と見込む。

一方、表 12 のように、令和 2 年度～令和 6 年度の 5 年間における社会人全体の博士課程後期 3 年の課程への進学者は 1 ～ 11 人（平均 5.4 人）であった。このうち今回のアンケート調査対象である東北大学病院と良陵令和会加盟病院からの進学者は 0 ～ 1 人（平均 0.2 人）、その他病院等からの進学者は 1 ～ 11 人（平均 5.2 人（ $5.4 - 0.2$ 人））であった。よって、その他病院等からの社会人進学者を過去 5 年間の平均値（5.2 人）に基づき 5 人と見込む。

表12. 博士課程後期 3 年の課程への社会人入学者数

課程	専攻	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	5 年間平均
後期 3 年の課程	障害科学	3 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	1.2 (0)
後期 3 年の課程	保健学	8 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (1)	1 (0)	4.2 (0.2)
合計		11 (0)	5 (0)	5 (0)	5 (1)	1 (0)	5.4 (0.2)

() は東北大学病及び良陵令和会加盟病院からの進学者数

また、「① 本研究科（内部進学者）の進学意欲」で記載したように、内部進学者のアンケート結果から、専攻再編によって修士課程・博士課程前期 2 年の課程修了学生の 44.6% は進学先を医学履修課程から博士課程後期 3 年の課程に変更すると予想される。次の「（3）医学履修課程の定員充足根拠」で詳述するが、

令和２年度～令和６年度の５年間ににおける医学履修課程への社会人（医師以外）進学者は平均 10.8 人であった。従って、これまで医学履修課程に進学していた社会人（医師以外）10.8 人のうち 4.8 人（44.6%）は博士課程後期３年の課程に進学すると考えるのが合理的であり、医学履修課程から博士課程後期３年の課程へ進学先を変更する社会人を５名と見込む。

よって、博士課程後期３年の課程への社会人進学者については、東北大学病院及び良陵令和会加盟病院から 10 人、その他病院等から 5 人、医学履修課程から進学先を変更する者 5 名を合算した 20 名を見込む。

④ 他大学からの入学状況

他大学からの入学者については、表 13 のように、過去５年間（令和２年度～令和６年度）で 1～４人（平均 3.0 人）であった。一方、次の「（３）医学履修課程の定員充足根拠」で詳述するが、令和２年度～令和６年度の５年間ににおける医学履修課程への他大学からの入学者は平均 13.6 人であった。「③ 社会人の進学意欲」での記載と同様に、13.6 人の 44.6%（6.1 人）は医学履修課程から博士課程後期３年の課程に進学先を変更すると考えられるため、他大学からの進学者数を 9 人（3.0 人 + 6.1 人）と見込む。

表 13. 博士課程後期３年の課程への他大学からの入学者数

課程	専攻	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	５年間平均
後期３年の課程	障害科学	0	2	2	3	1	1.6
後期３年の課程	保健学	1	2	2	1	1	1.4
合計		1	4	4	4	2	3

⑤ 留学生の入学状況

留学生の入学者については、表 14 のように、過去５年間（令和２年度～令和６年度）における博士課程後期３年の課程の留学生入学者は 1 人～６人（平均 3.6 人）であった。一方、次の「（３）医学履修課程の定員充足根拠」で詳述するが、令和２年度～令和６年度の５年間ににおける医学履修課程への留学生入学者は平均 20.2 人であった。「③ 社会人の進学意欲」での記載と同様に 20.2 人の 44.6%（9.0 人）は、医学履修課程から博士課程後期３年の課程に進学先を変更すると考えられるため、留学生入学者数を 13 人（3.6 人 + 9.0 人）と見込む。

表14. 博士課程後期3年の課程への留学生数

課程	専攻	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	5年間平均
後期3年の課程	障害科学	2	2	4	3	0	2.2
後期3年の課程	保健学	1	2	2	1	1	1.4
合計		3	4	6	4	1	3.6

＜まとめ＞

以上の分析結果により、博士課程後期3年の課程の入学見込数は、本研究科（内部進学者）：17人、他研究科生：1人、社会人：20人、他大学生：9人、留学生：13人、合計：60人となる。さらに東北大学が国際卓越研究大学に選ばれたことも博士課程後期3年の課程の志願者増加につながると予想される。従って再編後の入学定員42人を十分充足することが可能である。

なお、総合医学専攻ではコース別の入学定員を設けないが、博士課程後期3年の課程においては、医科学コース：34人、看護学コース：8人程度の学生受入を目安と考えている。

表15は、博士課程後期3年の課程への進学意欲を示した者（「ぜひ進学したい」「できれば進学したい」「関心がある」を選択した者）のうち、進学希望コースを回答した者の人数を整理したものである。①本研究科（内部進学者）、②他研究科生、③社会人（東北大学病院及び良陵令和会加盟病院）のみのデータであるため正確に予測することは難しいが、概ね各コースの受入目安に応じた傾向を示していることから、各コースで目安としている学生数を確保することは十分に可能である。

表15. 博士課程後期3年の課程における進学希望コース（アンケート結果より）

	医科学コース	看護学コース	合 計
① 本研究科生	31	8	39
② 他研究科生	3	0	3
③ 社会人	24	3	27
合 計	58	11	69

（3）医学履修課程の定員充足根拠

過去5年間の医学履修課程の入学状況を表16に示す。

表16. 過去5年間の医学履修課程の入学状況

課程・専攻	定員	5年間平均				令和2年度				令和3年度				令和4年度				令和5年度				令和6年度			
		志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率(%)	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率(%)	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率(%)	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率(%)	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率(%)				
医学履修 医科学	130	166.2	155.8	155.4	119.5	169	164	161	123.8	168	150	146	112.3	181	171	166	127.7	151	149	145	111.5	162	160	159	122.3
医師		113.6	110.0	109.6		125	124.0	124		109	101.0	101		125	117.0	115		102	102.0	102		107	106.0	106	
医師以外		52.6	48.8	45.8		44	40.0	37		59	49.0	45		56	54.0	51		49	47.0	43		55	54.0	53	

現専攻の医学履修課程（入学定員 130 人）における過去5年間（令和2年度～令和6年度）の平均志願者数は 166.2 人、平均入学者数は 155.4 人（定員充足率 119.5%）となっている。

「（2）博士課程後期3年の課程の定員充足根拠」で記載したとおり、これまで医学履修課程へ進学していた医師以外の 44.6%（志願者数 23.5 人、入学者数 20.4 人）は、博士課程後期3年の課程に進学先を変更すると考えられる。

よって、医学履修課程に対する志願者数は減少すると考えられるが、新専攻における入学定員の設定は 115 人となっており、見込まれる志願者数（ $166.2 - 23.5 = 142.7$ 人）の状況を踏まえると、十分に定員を充足することが可能である。

＜アンケート調査の調査結果による学生確保の見通し＞

入学定員が充足できる見通しについて調査するため、①本研究科大学院生（修士課程・博士課程前期2年の課程）、②他研究科大学院生（理学研究科、歯学研究科、薬学研究科、農学研究科の修士課程・博士課程前期2年の課程）、③社会人（東北大学病院及び良陵令和会加盟の27病院の医療従事者）等を対象に、令和7年9月12日～10月3日までの期間、Google Forms によるアンケート調査を行った（別添資料1）。この調査結果を分析し、定員の充足見込みを説明する。

① 本研究科(内部進学者)の進学意欲

令和9年3月に修了予定の修士課程・博士課程前期2年の課程1年生に対するアンケート調査では、医学履修課程に進学意欲を示した学生は 13 人（「ぜひ進学したい」6 人、「できれば進学したい」1 人、「関心がある」6 人）であった。

「（1）博士課程前期2年の課程の定員充足根拠」と同様に、実際の進学者を「ぜひ進学したい」（6 人）、「できれば進学したい」（1 人）とすると7人となるので、本研究科からの総合医学専攻医学履修課程への進学者数を7人と見込む。

また、表10に示したように、令和2年度～令和6年度の5年間における医学履修課程への内部進学者は、18～24 人（平均 20.6 人）であった。従って、約 14

人の減少を予想するが、これは「(2) 博士課程後期 3 年の課程の定員充足根拠」で記載したように、修士課程・博士課程前期 2 年の課程修了者の多くが再編後に医学履修課程から博士課程後期 3 年の課程に進学先を変更することに伴うものである。

② 他研究科生の本研究科への進学意欲

令和 9 年 3 月に修士課程・博士課程前期 2 年の課程修了予定の他研究科大学院生（理学研究科、歯学研究科、薬学研究科、農学研究科）に対するアンケート調査では、医学履修課程に進学意欲を示した学生は 2 人（いずれも「関心がある」）であった。従って実際の進学者としては見込まないが、表 17 に示すように令和 2 年度～令和 6 年度の 5 年間における医学履修課程への他研究科からの進学者は 0～3 人（平均 0.8 人）となっていることから、今後も他研究科生に対する働きかけを継続的に行っていくこととする。

表 17. 医学履修課程への他研究科からの進学者数

課程	専攻	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	5 年間平均
医学履修課程	医科学	0	1	0	3	0	0.8

③ 社会人の進学意欲

東北大学病院及び良陵令和会加盟の 27 病院の医療従事者を対象にアンケート調査を行った。その結果、医学履修課程への進学意欲を示した者は「ぜひ進学したい」21 人（医師 17 人、その他 4 人）、「できれば進学したい」16 人（医師 15 人、その他 1 人）、「関心がある」40 人（医師 35 人、その他 5 人）で、合計 77 人（医師 67 人、その他 10 人）であった。この 77 人に関して、「(1) 博士課程前期 2 年の課程の定員充足根拠」と同様に、実際の進学者を「ぜひ進学したい」21 人（医師 17 人、その他 4 人）、「できれば進学したい」16 人（医師 15 人、その他 1 人）とすると 37 人（医師：32 人、その他 5 人）となる。進学に意欲を示した者は 77 人いたものの、博士課程前期 2 年の課程及び後期 3 年の課程と同様の考え方で進学者数を 37 人と判断すると、表 18 に示す令和 2 年度～令和 6 年度における東北大学病院及び良陵令和会加盟病院からの入学者実績（平均 58.2 人）と比較し著しく低い見込となる。

大学病院等で社会人として勤務する医師のステップアップには博士号が大変重要であり、臨床研修医・専攻医・医員の多くは、将来展望が開けたタイミング

で速やかに医学履修課程への進学を決断する。従って、本アンケート調査結果は、「関心がある」と回答した 40 名を含め、実際の進学を強く意識したものと考えられ、「関心がある（40 人）」を含めた場合の合計 77 人と、表 18 における過去 5 年間の進学者数（49～73 人）を比較しても大きな変動はない状況である。

よって、医学履修課程における社会人見込数については、過去 5 年間の平均進学者数に基づき見込むこととする。

表18. 東北大学病院・長陵令和会加盟病院から医学履修課程へ入学する医療従事者数

課程	専攻	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	5 年間平均
医学履修課程	医科学	55	60	73	49	54	58.2

表 19 のように、令和 2 年度～令和 6 年度の過去 5 年間における医学履修課程への社会人進学者は 85～123 人（平均 104.4 人：医師 93.6 人、その他 10.8 人）であった。「(2) 博士課程後期 3 年の課程の定員充足根拠 ③ 社会人の進学意欲」で記載したように、医師以外の進学者の 44.6% は医学履修課程から博士課程後期 3 年の課程に進路を変更することが予想される。よって、社会人の医学履修課程への進学見込者数を 100 人（医師 93.6 + その他 10.8 × (1-0.446) = 99.6 人）と見込む。

表19. 医学履修課程への社会人進学者数

課程	専攻	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	5 年間平均
医学履修課程	医科学						
	医師	106	96	109	75	82	93.6
	医師以外	10	13	14	10	7	10.8
合計		116	109	123	85	89	104.4

④ 他大学からの入学状況

他大学から医学履修課程への入学者数については、表 20 のように過去 5 年間（令和 2 年度～令和 6 年度）で 3～25 人（平均 13.6 人）であった。令和 4 年度のみ大きく減少したが、他の年度は大きな変動は見られない。「(2) 博士課程後期 3 年の課程の定員充足根拠」に記載したように、修士課程・博士課程前期 2 年の課程の進学者は 44.6% 程度が博士課程後期 3 年の課程に進学先を変更することが予想される。従って、総合医学専攻医学履修課程へ進学する他大学卒業生・修了生にも同様の変更が予想されることから、過去 5 年間の平均進学者数（13.6

人)に影響率を加味し、入学者数を8人(13.6人×(1-0.446))と見込む。

表20. 医学履修課程への他大学からの進学者数

課程	専攻	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	5年間平均
医学履修課程	医科学	10	11	3	19	25	13.6

⑤ 留学生の入学状況

留学生の医学履修課程への入学者数については、表21のように過去5年間(令和2年度～令和6年度)16人～26人(平均20.2人)で、全員医師以外であった。専攻再編後は上記④と同様に44.6%減少の影響を踏まえ、入学者数を11人(20.2人×(1-0.446))と見込む。

表21. 医学履修課程への留学生数

課程	専攻	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	5年間平均
医学履修課程	医科学	18	16	22	19	26	20.2

<まとめ>

以上の分析結果により、医学履修課程の入学者見込数は、本研究科(内部進学者):7人、他研究科生:0人、社会人:100人、他大学生:8人、留学生:11人、合計:126人となる。医学履修課程は医師の主要な進学先であり、再編後も安定した需要が期待できる。さらに国際卓越研究大学としてフィジシャン・サイエンティストの養成を掲げる本学総合医学専攻医学履修課程は、今後積極的に広報して学生募集力を強化することで、全国各地から医師を中心に志願者を増加させることが可能と考えている。従って、再編後の入学定員115人を十分充足することが可能である。

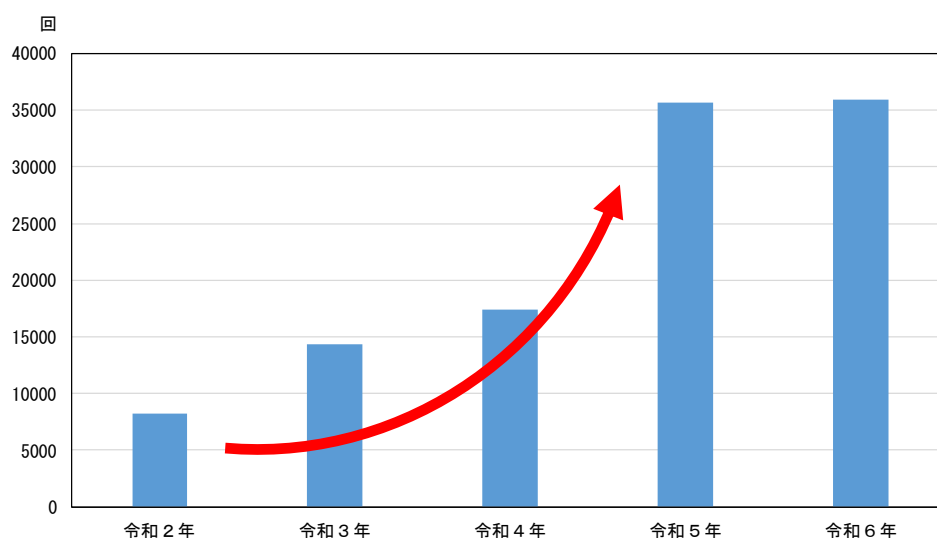
2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

質の高い志願者を継続的に多く確保する確保するために、本研究科では多面的に問題点を抽出し、以下のような取組を行なっている。

1) 学生募集力の強化

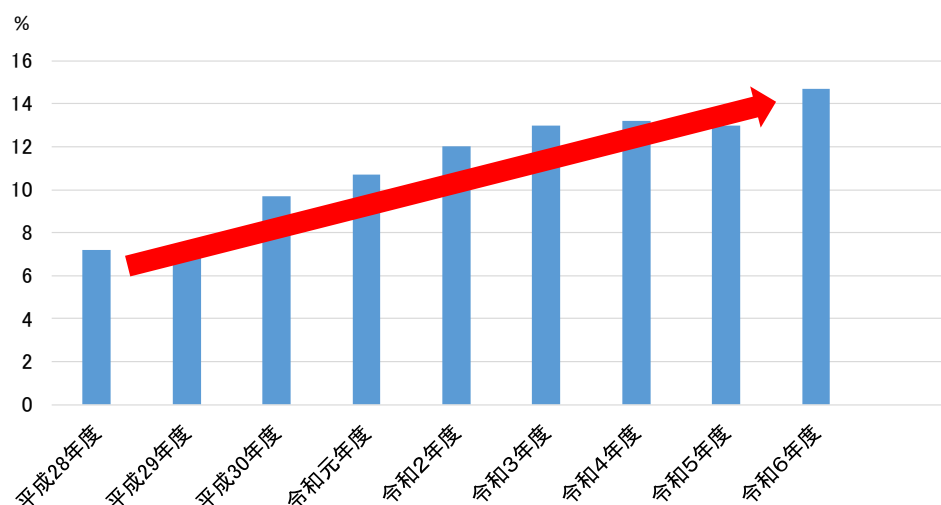
優秀な学生を多く集めて質の高い入学選抜を実施するために、学生募集力の強化が重要である。コロナ禍の影響を受けて令和2年度から大学院入試説明会が中止となったが、代わりに本研究科ホームページに大学院説明特設サイト(M-Labo)を新設した。同サイトは最新の大学院情報とともに多彩なコンテンツを配信し、令和5年度にはアクセス数が令和2年度と比較し4.3倍にも増加した(図9)。令和7年度からは、東北大学の魅力や大学院情報の発信力をさらに高めるために、M-Laboに代わる新コーナーを立ち上げている。

図9. 本研究科ホームページ大学院説明特設サイト(M-Labo)へのアクセス数



令和5年度から大学院説明会を再開し、令和6年度から英語によるオンライン入試説明会も開始した。参加者は令和5年度の82人から令和7年度は225人と2.7倍となった。令和7年度は日本以外に17カ国もの学生がこのオンライン入試説明会に参加登録しており、海外への発信力が着実に強化されている。その結果、博士課程後期3年の課程及び医学履修課程における留学生割合は着実に増加している(図10参照)。

図10. 後期3年の課程・医学履修課程における留学生割合



このような広報活動の実績を生かして、今回のアンケートで「できれば進学したい」「関心がある」と回答した学生が確実に志願者となるよう、今後ホームページ、オンライン、対面等で新専攻における教育内容等を説明する機会を増やし、総合医学専攻への進学の意味や魅力を広くアピールする。なお、本学他研究科に対しては、再編を契機に大学院教育センターを介して学際的な教育・研究連携を加速し、共同セミナーの開催や他研究科での講義等を通して本研究科の魅力の発信に努める。更に、後述の経済的支援の充実等についても積極的な広報を展開するなど、学生募集力の強化を確実に進める。

2) 多様な志願者獲得に向けた入学者選抜

再編後の総合医学専攻では、多面的な融合教育を積極的に行うため、他学部・他大学出身者、社会人・留学生も含めた多様な志願者の獲得が今まで以上に見込める。そのため、多様な背景を持つ志願者に合った入学者選抜が必要である。

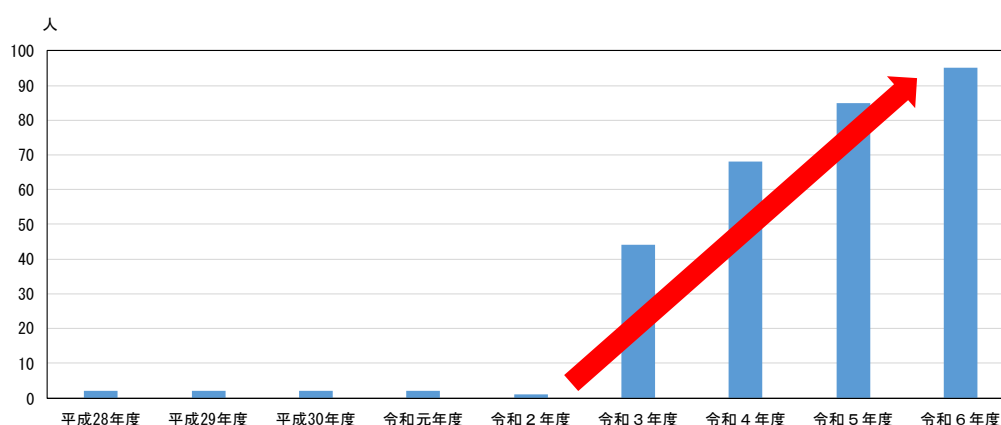
全専攻・課程とも年2回（4月・10月）の入学機会を設け、入学試験は8月と1月に実施する。令和6年度から、全ての専攻・課程で海外在住者を対象としたオンライン試験による特別選抜をスタートさせ、海外留学生でも安心して受験できる体制を整備した。また質の高い入学者選抜を実施するために、一般・社会人・外国人留学生等に区分した入学者選抜は行わず、志願者の学力・修学適性・志望動機に基づく入学者選抜を実施しており、多様性に富んだ質の高い学生を獲得する体制を整備している。

3) 大学院生への経済的支援の強化

研究科独自の奨学賞・奨学金として「辛西会優秀学生賞」「東北医学会奨学賞」「スターター・ブースター研究奨学賞」「菅原医学振興基金」「今野海外留学奨励賞」、留学生を対象にした「Takahashi Memorial Award」「藤野先生記念奨励賞」、女子大学院生を対象とした「七星賞」等設ける一方、研究科予算で教員の業務活動を幅広く支援するための学生アシスタントを積極的に配置している（令和7年度は135人を雇用）。

令和3年度より東北大学独自の「挑戦的研究支援プロジェクト/博士学生フェローシップ制度」（令和7年度より「東北大学高等大学院国際卓越研究者育成支援プログラム」に変更）が開始され、年390万円＋研究費年34万円が支給されている。令和6年度からは「次世代AI人材育成プロジェクト」（年312万円＋研究費年78万円）も始まり一層の充実を見ている。また、民間からの奨学金として、武田科学振興財団医学部博士課程奨学助成（月額30万円×4年）も得られる。その結果、生活費（年200万円）相当の奨学金を受ける博士課程後期3年の課程・医学履修課程の大学院生数は、令和6年度には95人まで増加した（図11）。今後も博士課程後期3年の課程及び医学履修課程を中心に経済的支援を加速させ、学生確保につなげていく。

図11.奨学金受給者数(受給額が年間200万円以上の者)



4) 柔軟な履修環境

柔軟な履修環境を整えることは、特殊事情を抱える学生の心理的負担を軽減する効果があり、学生確保につながる。本研究科では、修学を困難とする特殊事情（働いている、出産・育児・介護を行う必要がある、専攻医である等）を有する学生のために「長期履修制度」を設けており、標準修業年限を最大2倍まで延長できるようにしている。逆に優れた大学院研究を早期に完成させた場合、審査

によって修業年限を1年短縮して修了することが可能な「修業年限短縮制度」も実施している。

科目履修に関しては社会人に配慮し、東北大学インターネットスクール (ISTU) による e-learning やオンライン講義の充実、夕方に設定された授業科目の提供、個別指導による研究活動への適応支援、休日を利用した研究活動の奨励、実験実習等の集中的実施（夏季期間や年末等）、オンラインシステム活用による研究成果向上支援など、多様な対応を行っている。ISTU 科目内容は大学院運営合同委員会でチェックし、計画的にアップデートを行なっている。専攻再編後は「Meet the Professor」（世界の大学とオンラインで結ぶ基盤科目）の新設等オンラインシステムの利点を活かした一層柔軟かつ国際的な履修環境の整備を加速する。

5) 充実した研究環境

質の高い研究を遂行するためには様々な実験設備や技術が必要となる。充実した研究環境の整備は大学院生の充実感、満足度を高め、次の学生確保にもつながる。本研究科では「複数教員指導制」を取り、2人のアドバイザー教員が個別相談に応じる体制で研究や履修の指導を徹底させている。どの分野の大学院生も安心して様々な実験が行えるように共通機器室の充実に努めており、高額な研究機器を大学院生に広く開放する一方、説明会、セミナー、デモンストレーション等も適宜開催している。病理標本作製のような熟練した技術を有するものは、専門的技術員を配置し、より強くサポートしている。

また「東北大学大学院医学系研究科リトリート」（大学院生が主体となって開催する学内研究発表会）や令和6年度より始まった「若手研究者のためのネットワーキング ～コラボして研究を大きくしよう！～」(キャンパス内の様々な分野の大学院生を含む若手研究者が集まって研究交流を深める会)が定期的に実施され、大学院生間の活発な研究交流環境が整えられている。専攻再編後は「ネットワーキング演習」も新規開講予定で、本研究科の全分野が一体となって多彩な大学院生の研究活動を充実させるよう連携する。

本研究科では高度医療系人材育成にも力を入れており、「医療 AI 人材育成拠点プログラム」、「東北次世代がんプロ養成プラン」「コンダクター型災害保健医療人材養成プログラム」等を設置しており、専攻再編後も継続予定である。さらに総合大学としての強みを活かして、学部や研究科の壁を超えた部局横断的な7つの学位プログラムに参加し、そのうち2プログラム（「Neuro Global 国際共同大学院プログラム」と「未来型医療創造大学院プログラム」）は本研究科の教員が主導している。このように、多様な目的を持つ学生においても研究意欲が満たされるような充実した環境を提供している。専攻再編後は新設する大学院

教育センターを中心に他研究科・他大学との教育連携を一層強化し、融合教育・学際教育をさらに加速させていく。

3. 社会的要請や人材需要の動向

1) 人材の養成に関する目的とその他の研究教育上の目的

総合医学専攻では、高度な専門的知識・技術と学際的な多彩な知を合わせ持つ人材育成、多様化・専門化する医療の一線で世界を視野に活躍できる高度専門医療人の養成、高い倫理観を持って次世代の医学・医療を推進する研究者や研究医の育成を教育研究上の理念・目的としている。各課程・コースの養成する人材像は下記のとおりである。

(1) 博士課程前期2年の課程

① 課程共通

高度化・複雑化する医療ニーズに応えながら、次々と新しく出現する最新医療を理解し応用できる高度医療人を育成する。医学、看護学、公衆衛生学に関する高度な専門的知識と学識を備え、それらに関連する幅広い先端技術を身につけ、医療現場に発展性を持って還元できる能力を習得させるとともに、他分野等との連携を通して学際的な包括的医療を行う能力を涵養する。国際的な視野に立って高い目的意識とリーダーシップを育てる機会を提供するとともに、医学、看護学、公衆衛生学に関する高度な専門的知識・技術と幅広く豊かな知を合わせ持ち、高い倫理観を持って、研究・医療の最前線で活躍できる実践的な人材を育成する。

② 医科学コース

医学・医療の基礎的知識と先端技術を身につけ、医学・医療の複雑な課題に対応できる研究者や高度専門職業人を養成する。特に基礎医学、臨床医学、障害科学、保健学等の専門知識と学際的視野を併せ持ち、国際性と高い倫理観を有し、多職種連携の中で医科学研究を推進できる人材を育成する。

③ 看護学コース

看護学の教育・研究者及び保健師・助産師、高度実践看護師の養成を行う。看護学の高度かつ実践的な教育研究を行い、看護学分野における研究者・教育者を育成する。看護専門職としての倫理的判断力を有し、学際的・国際的な視野を持って看護研究・看護教育を牽引する人材を養成する。

④ 公衆衛生学コース

公衆衛生学の専門知識と研究手法を習得し、人々の健康増進と疾病予防に貢献できる公衆衛生専門家を養成する。公衆衛生学修士 (Master of Public Health) を取得することを目的とする。理論の修学と研究の実施のみならず、関連する領域・組織で科学的根拠に基づいた活動を実施できる人材を養成するとともに、国際的視野と高い倫理観を有しながら社会への働きかけを通じて人々を健康に導ける人材を養成する。

(2) 博士課程後期3年の課程

① 課程共通

高度化・複雑化する医療ニーズに応えながら、自ら新たな医療の方法や技術を開発し、それを社会実装することができる医学研究者・高度医療人を育成する。そのために高度な専門的知識と学識を備えた上でその応用を可能とし、それらに関連する幅広い先端技術を身につけるだけでなく、先端技術の改良を推進できる人材を養成する。多分野と協働しながら医療現場に発展性を持って還元するのみならず、グローバルな研究者集団を巻き込んで世界レベルで社会実装できる能力を習得させる。高い倫理観を持ちつつ研究・医療の最前線で活躍しながらグローバルに研究コミュニティを牽引できる人材を育成する。

② 医科学コース

医学全般における高度な専門知識と研究能力を持ち、世界水準の独創的な研究を自立して遂行できる研究者や教育者を養成する。医学の先端領域を開拓し、学際的な研究チームを牽引できる能力を持ち、国際的な研究ネットワークの中で活躍できる高い倫理観を持った人材を育成する。

③ 看護学コース

看護学分野における高度な専門知識と研究能力を持ち、看護学の発展に寄与する世界水準かつ独創的な研究を自立して遂行できる研究者や教育者を養成する。看護実践の科学的基盤を構築し、高い倫理観を持ちつつ国際的な視野で看護研究・看護教育を牽引する人材を養成する。

(3) 医学履修課程

医学・医療における最先端の専門的知識を身につけ、未知未踏の課題に取り組む強い意欲を持って世界で活躍する基礎医学研究者や真のフィジシャン・サイエンティストを養成する。豊かな学識・教養、高度な専門的知識、総合知を活用して医学・医療を学際的に発展させる能力を有し、自立して独創的な研究を遂

行・指導することができ、社会的ニーズを俯瞰的視野で踏まえつつ、高い倫理観と強い責任感を持って医療・医学の発展に貢献し、高度な国際的視野とコミュニケーション力で世界の研究を先導する人材を育成する。

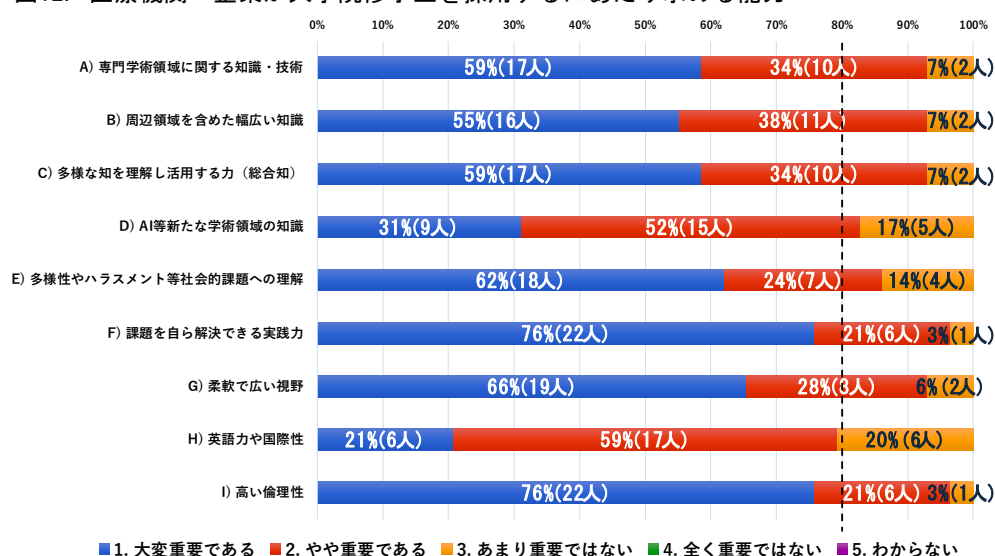
2) 上記1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本研究科修了生を受け入れた実績のある医療機関・企業 133 社を対象に令和 7 年 9 月 12 日～10 月 10 日までの期間、Google Forms によるアンケート調査を行った（別添資料 1）。この調査結果を分析し、総合医学専攻の社会的・地域的な人材需要を説明する。

(1) 大学院修了生を採用するに当たり求める能力

社会が大学院修了生に求める能力として、従来より重視されている「専門学術領域に関する知識・技術」「英語力や豊かな国際性」「高い倫理性」とともに、近年、政府・産業界・学術界等から提言されている「周辺領域を含めた幅広い知識」「多様な知を理解し活用する力（総合知）」「AI 等新たな学術領域の知識」「課題を自ら解決できる実践力」「柔軟で広い視野」、さらには社会的課題として「多様性やハラスメント等社会的課題への理解」等が考えられる。そこで医療機関・企業に、大学院修了生を採用するにあたりこれら 9 項目がどの程度重要かをアンケート調査した。

図12. 医療機関・企業が大学院修了生を採用するにあたり求める能力



その結果図 12 に示すように、これら 9 つの能力に対して、「大変重要である」「やや重要である」と回答した企業・医療機関は、「専門学術領域に関する知識・

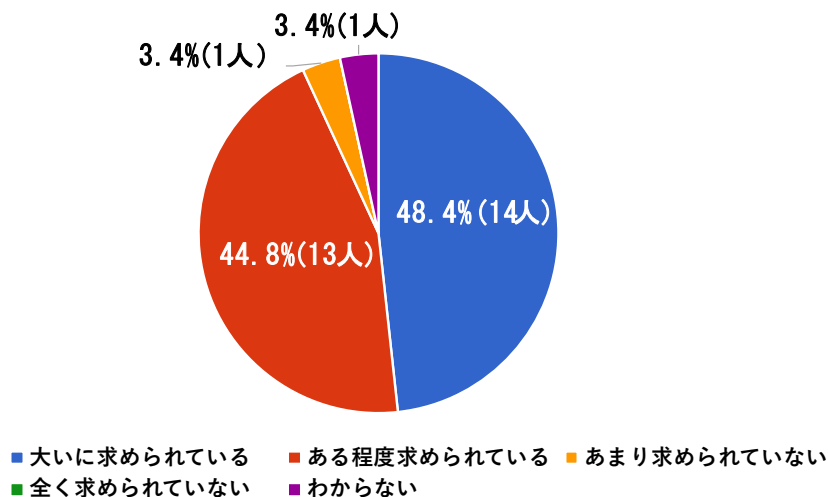
技術：93%」「周辺領域を含めた幅広い知識：93%」「多様な知を理解し活用する力（総合知）：93%」「AI 等新たな学術領域の知識：83%」「多様性やハラスメント等社会的課題への理解：86%」「課題を自ら解決できる実践力：97%」「柔軟で広い視野の育成：96%」「英語力や国際性：80%」「高い倫理性：97%」であった。いずれの能力も 80%以上の企業・病院が重要と考えており、医学・医療を取り巻く情勢の急激な変化を受け、大学院修了生に多面的な能力を期待していることが明らかとなった。特に「周辺領域を含めた幅広い知識」「多様な知を理解し活用する力（総合知）」「柔軟で広い視野の育成」は、「専門学術領域に関する知識・技術」と同等かそれ以上に重要視されており、専門学術領域のみならず多分野と協働し総合知を活用できる大学院修了生を求める声が社会で特に高まっていると判断される。

（2）大学院修了生に対する採用希望動向等

総合医学専攻における養成する人材像は「高度な専門的知識・技術と学際的で多彩な知を合わせ持つ人材、多様化・専門化する医療の一線で世界を視野に活躍できる高度専門医療人、高い倫理観を持って次世代の医学・医療を推進する研究者や研究医の育成」であり、そのために全ての課程・コースにおいて、カリキュラム・ポリシーの中核に「専門性・学際性」「国際性・多様性・協働性」「倫理性」を据え、「（1）大学院修了生を採用するに当たり求める能力」に記載した9項目を実践する。医療機関・企業に対するアンケート調査において、総合医学専攻で養成する人材像が社会的に求められているかを聞いたところ、図13のように「大いに求められている」「ある程度求められている」との回答が93.2%を占めた。

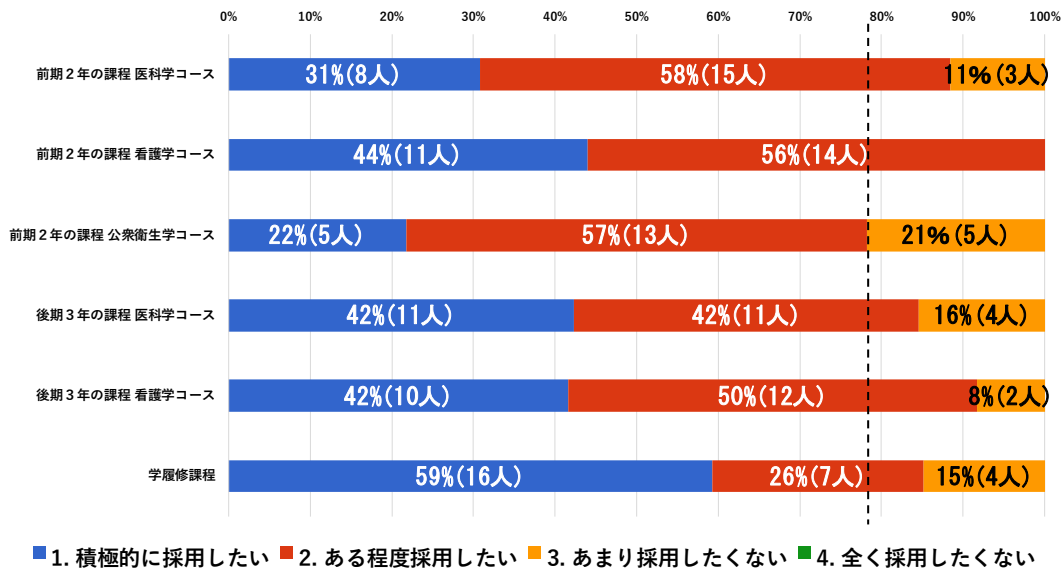
また、自由記載として「今まで専攻間の壁があり、学際的な展開の障壁になっていたと思う」「分野横断的な教育プログラムを期待する」「分野横断的・融合的な視点と国際的視野を持って欲しい」といったコメントも見られた。これは「（1）大学院修了生を採用するに当たり求める能力」のアンケート調査結果とよく合致しており、学際的視点の涵養と総合知の土台を形成しつつ、本学の強みである高度な専門教育を発展させていくための組織再編は、社会的ニーズに沿った方向性であると判断される。

図13. 医療機関・企業は、総合医学専攻で養成する人材像は社会的に求められていると考えるか



次に、大学院修了生を採用するにあたり求める課程・コースについて質問した。採用の可能性について「該当なし」と回答した企業・医療機関を除くと、図 14 のように、「積極的に採用したい」「ある程度採用したい」と答えた割合は「博士課程前期 2 年の課程医科学コース：89%」「博士課程前期 2 年の課程看護学コース：100%」「博士課程前期 2 年の課程公衆衛生学コース：79%」「博士課程後期 3 年の課程医科学コース：84%」「博士課程後期 3 年の課程看護学コース：92%」「医学履修課程：85%」と、全課程・コースとも 79%以上であった。

図14. 医療機関・企業が大学院修了生を採用するにあたり求める課程・コース



新設予定の「博士課程後期3年の課程医科学コース」も高く求められていることが明らかとなり、総合知を土台に高度な研究力を養成する本コースへの社会的な期待の高さが窺える。一方看護学コースや公衆衛生学コースも高く求められており、医療系高度職業人の養成においても「総合知の涵養」の重要性が示唆される。これらの結果から、総合医学専攻に設置する全ての課程・コースとも社会的・地域的な人材需要の動向によく合致していると判断できる。

参考までに、東北大学医学部生・本研究科生（修士課程・博士課程前期2年の課程）、東北大学他学部生（理学部、歯学部、薬学部、農学部）・他研究科学生（理学研究科、歯学研究科、薬学研究科、農学研究科の修士課程・博士課程前期2年の課程）社会人（東北大学病院及び良陵令和会に加盟する病院の医療従事者）等を対象に行なったアンケート調査において、大学院に進学した場合に身に付けたい能力を質問した。その結果は図15のとおりである。いずれの対象者でも、総合医学専攻が重視する9つの能力に対して、「大いに身につけたい」「身につけたい」と回答した人は74%以上と高く、アンケート調査から明らかになった企業・病院の求める人材像とほぼ一致する結果となった。このことから、総合医学専攻への組織再編は学生のニーズとも合致することが確認でき、きわめて妥当な方向性と言える。

図15. 大学院に進学した場合に身につけたい能力

